科　目　名	心理学概論		
担当教員名	池田　まさみ		
ナンバリング	ECa1001		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

　心理専門科目の基礎として、心理学の成り立ち（歴史的展開）を学ぶと同時に、科学としての心理学の考え方と方法を理解する。

　人間の「行動」と「心」の関係を科学的手法を用いて探究する態度と視座を身につける。

②科目の概要

・前半は「脳と心」をテーマに、心理学的現象に関する映像やデモの視聴、簡易的な実験の実施を通して、
　人間の知覚・認知、発達に関する特徴、及び、その現象が起きるメカニズムについて体験的に学ぶ。

・後半は「心と適応」をテーマに、自己分析ワークなどを通して、人間の社会的適応・不適応のメカニズムを学ぶと同時に、
　コミュニケーションのあり方など心理学と日常生活の関わりを実践的に理解する。

③授業の方法（ALを含む）

・画像や映像、簡易的な実験デモを提示しながら、具体的かつ体験的な理解を促す。
　また、受講生自ら課題を発見し探究する力＝科学的視点も養いたい。

・講義を基本に、グループワークやディスカッションを適宜取り入れ、思考の交流を図る。

④到達目標

・心理学の基礎的知識を習得する

・人間科学＝実証科学としての心理学に対する関心・理解を深める

・受講者自ら、問題や課題を発見する力、及び、探究する力を養う

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

・①‐１　基本的理念・概念の理解

・②‐１　実証的・科学的思考

・③‐２　知識・理解を活用する意欲

内容

講義を基本に、グループワークやディスカッションを適宜取り入れ、思考の交流を図る。

01　心理学とは
02　脳と心の進化－動物にも心はあるか
03　脳と心の進化－ヒトから人へ
04　物理世界と知覚－見える世界と見えない世界
05　物理世界と知覚－見える仕組み【グループワーク】
06　記憶と忘却－覚えること・思い出すこと
07　記憶と忘却－記憶の変容
08　発達と認知－発達とは
09　発達と認知－育み合う心【ディスカッション】
10　情報と思考－推論とは
11　情報と思考－原因を考える
12　社会的行動－他者の行動を考える【グループワーク】
13　社会的行動－自分の行動を考える【ディスカッション】
14　社会的行動－適応と不適応　【グループワーク】【ディスカッション】
15　まとめ　【グループワーク】【ディスカッション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む（授業ごとに45分以上）
【事後学修】確認テストなどを通して復習（自身の理解に対するふりかえり）を行う（授業ごとに45分以上）

評価方法および評価の基準

【評価方法】中間および期末試験・授業時ワーク等の提出物
【評価基準】評価方法のなかで到達目標の配分を下記の通り設定し、総合評価60点以上を合格とする
・心理学の基礎的知識を習得する：50%
・人間科学＝実証科学としての心理学に対する関心・理解を深める：30%
・受講者自ら、問題や課題を発見する力、及び、探究する力を養う：20%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない。授業で使用する資料を教員フォルダに格納するので、各自印刷して授業時に必ず持参すること。
【参考図書・推薦図書】必要に応じて、授業のなかで適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

・リフレクション（＝振り返り）の時間を設けます。自身の考えをアウトプットしてください。
・リフレクションを共有する（＝思考の交流）を通して、理解をより深めてほしいと思います。

科　目　名	発達心理学概論（発達心理学）		
担当教員名	石田　有理		
ナンバリング	ECa1002		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

生涯発達領域における入門科目であり、「乳幼児期の心理学」「児童期の心理学」「青年期の心理学」等、各発達段階に関する科目の基礎となる。公認心理師指定科目である。

②科目の概要

発達心理学とは、人間の生涯にわたる発達の過程と要因を探るものである。本講義では、人の発達をどのように捉えるのかに関して発達心理学における基礎的な理論や方法論を取り上げる。また、一生を通じて起こる発達の過程を胎児期から高齢期まで発達段階ごとに概観し、各段階において課題となる発達の諸側面について学ぶ。

③授業の方法

講義形式で授業を行う。毎回講義内容に関する作文を課し、作文の内容に関しては毎回フィードバックを行う。適宜映像視聴やディスカッションを取り入れ、主体的な学びを促す。

④学修目標

1.発達心理学における基本的な理論や方法論を知る。

2.人の発達段階ごとに、どのような変化や課題があるかを説明できる。

3.生涯にわたる人の発達の過程を知り、自らの経験や周囲の人々の様子と関連づける。

⑤ディプロマポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。

①-1基本的理念・概念の理解　②-1実証的・科学的思考　③-3課題発見・解決

内容

1	イントロダクション―発達とは[討議・討論]
2	発達の生物学的な基礎[リアクションペーパー]
3	発達をとらえる枠組み[討議・討論][リアクションペーパー]
4	胎児期の発達[リアクションペーパー]

5	乳児期の発達1[リアクションペーパー]
6	乳児期の発達2[リアクションペーパー]
7	幼児期の発達1[リアクションペーパー]
8	幼児期の発達2[リアクションペーパー]
9	児童期の発達1[リアクションペーパー]
10	児童期の発達2[リアクションペーパー]
11	青年期の発達[リアクションペーパー]
12	成人期の発達[リアクションペーパー]
13	高齢期の発達1[リアクションペーパー]
14	高齢期の発達2[リアクションペーパー]
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎回次回講義の予告をするので内容に関して自分なりに考えたりキーワードを調べたりしておく。（各授業に対して６０分）

【事後学習】学習内容についてノートを整理し復習する。また自分の書いた作文を見直し疑問点について考察を深める。（各授業に対して６０分）

評価方法および評価の基準

授業内容に関する毎回の作文課題（40%）、期末試験（60%）とし、総合得点60点以上で合格とする。

到達目標１　作文課題（10/40）　期末試験（30/60）

到達目標２　作文課題（15/40）　期末試験（20/60）

到達目標３　作文課題（15/40）　期末試験（10/60）

課題に関しては翌週以降の授業内で返却し口頭で全体講評を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：使用しない

推薦書：授業内で適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点以下の場合は再レポートを課す。内容については授業内で周知する。

科　目　名	臨床心理学概論		
担当教員名	永作　稔		
ナンバリング	ECb1008		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義・演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

公立中学校のスクールカウンセラーとして３年間勤務

実務経験および科目との関連性

公認心理師の職域のひとつである教育領域の職務経験が授業内容に活かされている。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

心理学科１年次必修科目のひとつです。学問としての臨床心理学という側面と、心理学をもちいた応用のひとつである心理的支援の基礎理論としての側面のそれぞれを学びます。

②科目の概要

臨床心理学は心理学に基づいた支援、援助を行うために体系立てられた学問です。本科目は臨床心理学の全般的な「概論」を講義する入門科目として位置づけられています。

③授業の方法（ALを含む）

毎回の授業はパワーポイントによる講義を中心に行います。また授業のふりかえりと感想や疑問について教員学生間で共有するために，グーグルフォームもしくは紙媒体の相互コミュニケーションツールを用いてアクティブラーニングを行います。

④到達目標

心理学全体における臨床心理学の位置づけとその発展の歴史を理解すること、主要な臨床心理学の理論や理論家について説明できるようになることを目標とします。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1.心理学の主な領域（発達、臨床、社会、生活、教育、保健）における基本的な理論や概念を理解できる

2.心理学の基本的な理論や概念に基づいて、人々の心や行動の特徴を分析的に考えることができる

3.自らおよび周囲の人々の心と身体の健康を保持増進するために、専門教育で習得した理論・概念・知識・技能を進んで活用しようとする意欲をもつことができる

内容

1	オリエンテーション
2	臨床心理学のはじまり
3	フロイトと精神分析
4	自我機能と防衛機制
5	学習理論と行動療法１（レスポンデント条件づけ）
6	学習理論と行動療法２（オペラント条件づけ）
7	人間性心理学の台頭
8	ロジャーズの理論と来談者中心療法
9	認知行動療法１（認知行動モデル）
10	認知行動療法２（認知再構成法と行動活性化）
11	ここまでのふりかえりと中間まとめ
12	秘密保持義務（守秘義務）について
13	精神疾患の診断（操作的診断基準）
14	薬物療法と心理療法
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスの該当箇所を読んで，各自で興味をもったことについて予習する（各授業90分）

【事後学修】講義中に感じたことや学んだことを振り返り，ノートにまとめること。疑問点については各自で調べておくこと（各授業90分）

評価方法および評価の基準

期末試験80％ 授業への参加度（20％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業で行われる小レポートをもとに，その次の回の冒頭でフィードバックを行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しません

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

心理学の発展と臨床心理学の発展を重ね合わせながら学んでください。

科　目　名	カウンセリング理論		
担当教員名	東畑　開人		
ナンバリング	ECb1010		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

カウンセラーとしての実務を、本講義に反映させている

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「カウンセリングとは何か」についての基礎的な講義である。今後の実践的な科目を理解する上での基盤となる内容を幅広く網羅する。

②科目の概要

カウンセリングの様々な理論や実践を広く見渡すことを通じて、「心を援助する」とはどういうことかの本質を掘り下げて理解する。

③授業の方法（ALを含む）

基本的には講義を行い、その上で毎回学生同士でディスカッションを行ってもらい、最後に教員と学生との対話を行う。

④到達目標

カウンセリングの大枠を理解し、幅広い理論の存在を知識として頭に入れること.

具体的には、①カウンセリングにおけるケアとセラピーを理解すること、②複数の心理学理論が存在すること、それらがどのように異なるかを理解すること、③それらについての基本的な概念名・人名を覚えること

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①-1　基本的理念・概念の理解　②-1　実証的・科学的思考　③-1　興味・関心、主体的な姿勢

内容

1	カウンセリングとは何か　ケアとセラピー
2	チンパンジーの心を癒す
3	宗教と呪術とカウンセリング
4	心未満の世界
5	フロイトの精神分析１　無意識の発見
6	フロイトの精神分析２　転移の発見

7	ロジャースとカウンセリングマインド
8	社会と心
9	ユングの分析心理学１　河合隼雄との関連で
10	ユングの分析心理学２　物語論
11	認知行動療法　エビデンスについて
12	自助グループの展開　ピアカウンセリング
13	公認心理師とケア
14	21世紀のカウンセリングへ
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】必要な文献を読んでくること60分

【事後学修】問題となった心理的現象について調べてくること60分

評価方法および評価の基準

毎回の小レポートが全体で30点、期末テストを70点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の終わりにフィードバックを行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に適宜案内する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	心理学統計法		
担当教員名	綿井　雅康		
ナンバリング	ECc1021		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は、学科専門科目「研究法・実習科目」領域の基礎となる必修科目である。心理学の実証的研究を進める上で必要不可欠である統計法の基礎的知識と技能を身につける。４年次の「卒業研究」に至るまでの研究法に関する科目の基礎基本となる事項を学ぶ。

②科目の概要

最初に、記述統計学と呼ばれるデータ集計の基礎を学習する。計算式の解説よりも、具体的データを実際に集計することで、統計用語や手法に親しむ。また計算手順を実践することで記述統計の考え方を理解する。次に、推測統計を学習する。実験計画法に基づいて測定されたデータに対する統計的仮説検定の手順について、具体的なデータの分析を通して習得する。「仮説」をどのように立てるのか、実験・調査の計画の立て方についても、合わせて理解することを目指す。

ほとんどの受講生が統計法について初学であることを考慮して、本科目における統計計算には、コンピュータアプリケーションではなく電卓を用いる。データを丹念に眺めること、計算の意味を理解し、計算手順を厳守する態度を育成していく。

③授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説と配付課題への取り組みを並行して行う。個人で取り組むよりも、少人数のグループワークにより統計演習の実技に取り組む。また、知識と技能の定着を図り、統計的な思考力を育成すること目指して授業外課題を出題する。【グループワーク】

④到達目標

到達目標1.分析目的に基づいて記述統計を実行しその結果を解釈できる

到達目標2.目的に基づいて適切な統計的検定を実行しその結果を読み取りに基づいた仮説検証が行える

到達目標3.主観によることなく実証的な統計手法から心理的現象を分析する態度を備える

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－２：実証的研究方法の理解、②－３：客観的・科学的な解釈、③－２：知識・理解を活用する意欲

内容

１．ガイダンス、心理統計法の意義

２．度数分布と統計図表

３．代表値（平均値、中央値、最頻値）

４．散布度（分散と標準偏差、範囲、四分領域）
５．２つの平均の比較（対応のないｔ検定）【グループワーク】
６．２つの平均の比較（対応のあるｔ検定）
７．３つ以上の平均の比較（対応のない分散分析）【グループワーク】
８．３つ以上の平均の比較（対応のある分散分析）
９．クロス集計
１０．質的変数間の関連（χ二乗検定）線形回帰【グループワーク】
１１．２変数間の相関【グループワーク】
１２．質的変数と量的変数
１３．正規分布と相対順位
１４．統計的検定の応用【グループワーク】
１５．まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】
１回　電卓の使い方を確認しておく [20分]。
２回～14回　各授業回に示された事項についてテキストを読んで概要を認識する [20分]。
15回　本科目での学修を振り返り、獲得した知識や技法を適切に活用できるようにしておく[90分]。
【事後学修】
２～14回　授業内で取り組んだ課題をもとに学修内容を的確に理解したのかを振り返る。その上で授業で配布された授業外課題に取り組む。修得した知識・考え方・計算技法・解析手順を確認すること[60分] 。
15回　本科目で学び得たものを振り返る。[20分]

評価方法および評価の基準

授業内課題の取り組み(15%)、授業外課題への取り組み(15%)、まとめの筆記試験(70%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。
到達目標１．授業内課題(５%／15%）、授業外課題(５%／15%)、まとめ試験(25%／70%)
到達目標２．授業内課題(５%／15%）、授業外課題(５%／15%)、まとめ試験(35%／70%)
到達目標３．授業内課題(５%／15%）、授業外課題(５%／15%)、まとめ試験(10%／70%)
【フィードバック】授業内課題は授業内で正解を提示、授業外課題や翌授業時までに返却し、全体としてのコメント、まとめの筆記試験については必要に応じて評価結果を返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】　吉田寿夫　『ほんとうにわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』　北大路書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

★電卓が必須です★　統計電卓ではなく、通常の電卓です。ただし、　√（ルート）ボタン、メモリ機能のボタン（MRとMCが別ボタン）を備えた大きめの電卓を用意すること(全ての授業時に使用します）。スマホの電卓は、課題解答時は使用できません。

科　目　名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下　倫実		
ナンバリング	ECc1022		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Aクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

全ての受講生が既に履修している必修科目「心理学統計法」と関連がある科目である。1年次に学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。

②科目の概要

　科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視される。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。本科目では統計的な考え方の基礎を復習しながら、パソコンを用いてデータの処理方法について学ぶ。

③授業の方法（ALを含む）

　本科目は演習科目であり、パソコンを用いてExcelでデータを集計・解析する方法を学ぶ。最終的に、授業内で実施する調査結果について、これまで学んだデータ解析方法を駆使し、レポートにまとめ提出する。【実技】【小テスト】【レポート（知識）】【レポート（表現)】

④到達目標

　・データ収集の考え方、データの測定方法やその水準、仮説検定の考え方など、データ分析の基礎的知識について説明できるようになる

　・データの水準に応じて、どのような解析方法を選択すべきか理解できるようになる

　・代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用し、データ解析ができるようになる

　・心理学のレポートのルールに則って、データ解析の結果を報告することができる

⑤ディプロマポリシーとの関連

　この科目は心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。①-5「客観的・論理的解釈」、②-3「客観的・科学的な解釈」

内容

この授業は講義に加え、実習を取り入れながら、学びを深めていく。

1.　ガイダンス‐心理学情報処理法で何を学ぶのか
2.　尺度の水準と解析方法の選択（質的データと量的データ）【小テスト】
3.　グラフで表現してデータの特徴をつかもう（表とグラフの作成）【小テスト】
4.　統計処理の基本：平均値、度数分布、標準偏差を計算する 【実技】【小テスト】
5.　標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう　【実技】【小テスト】
6.　2項目間の偏りを調べようⅠ（クロス集計表とχ2検定）【実技】
7.　2項目間の偏りを調べようⅡ（クロス集計表とχ2検定）【実技】【小テスト】
8.　2つの平均値に差があるか調べよう：対応のないｔ検定 【実技】【小テスト】
9.　2つの平均値に差があるか調べよう：対応のあるｔ検定　【実技】【小テスト】
10．2項目間の関連を調べよう（相関係数）　【実技】【小テスト】
11．3つ以上のグループ間に差があるか調べよう：一元配置分散分析　【実技】
12．どこの組み合わせに差がある？：分散分析後の多重比較 【実技】【小テスト】
13．調査データの集計・分析① 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】
14．調査データの集計・分析② 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】
15．調査データの集計・分析③ 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する(各授業に対して30分)
【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

【到達目標の評価方法】
　・データ収集の考え方、データの測定方法やその水準、仮説検定の考え方など、データ分析の基礎的知識について説明できるようになる（授業内の課題25%　レポート5%）
　・データの水準に応じて、どのような解析方法を選択すべきか理解できるようになる（授業内の課題10%、レポート15%）
　・代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用し、データ解析ができるようになる（授業内の課題15%、レポート15%）
　・心理学のレポートのルールに則って、データ解析の結果を報告することができる（レポート15%）

総じて、レポート50%+授業内での課題50%によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習を含む科目なので、
毎回の授業に出席すること。

【フィードバック】授業内に行なう課題の成績のフィードバックについては授業終了時までに全て行なう。また、課題の中で誤りが多い点については授業内で再度説明し、理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】　向後千春・富永敦子「統計学がわかる」技術評論社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

＊心理学統計法、情報処理演習の授業内容をしっかり復習しておくこと
＊授業は演習が中心であり、学んだことを確認するための小テストが頻繁に行われるため、遅刻・欠席は極力しないこと

科　目　名	心理学情報処理法		
担当教員名	奥村　基生、山下　倫実		
ナンバリング	ECc1022		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Bクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

全ての受講生が既に履修している必修科目「心理学統計法」と関連がある科目である。1年次に学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。

②科目の概要

　科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視される。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。本科目では統計的な考え方の基礎を復習しながら、パソコンを用いてデータの処理方法について学ぶ。

③授業の方法（ALを含む）

　本科目は演習科目であり、パソコンを用いてExcelでデータを集計・解析する方法を学ぶ。最終的に、授業内で実施する調査結果について、これまで学んだデータ解析方法を駆使し、レポートにまとめ提出する。【実技】【小テスト】【レポート（知識）】【レポート（表現)】

④到達目標

　・データ収集の考え方、データの測定方法やその水準、仮説検定の考え方など、データ分析の基礎的知識について説明できるようになる

　・データの水準に応じて、どのような解析方法を選択すべきか理解できるようになる

　・代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用し、データ解析ができるようになる

　・心理学のレポートのルールに則って、データ解析の結果を報告することができる

⑤ディプロマポリシーとの関連

　この科目は心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。①-5「客観的・論理的解釈」、②-3「客観的・科学的な解釈」

内容

この授業は講義に加え、実習を取り入れながら、学びを深めていく。

1.　ガイダンス‐心理学情報処理法で何を学ぶのか
2.　尺度の水準と解析方法の選択（質的データと量的データ）【小テスト】
3.　グラフで表現してデータの特徴をつかもう（表とグラフの作成）【小テスト】
4.　統計処理の基本：平均値、度数分布、標準偏差を計算する 【実技】【小テスト】
5.　標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう　【実技】【小テスト】
6.　2項目間の偏りを調べようⅠ（クロス集計表とχ2検定）【実技】
7.　2項目間の偏りを調べようⅡ（クロス集計表とχ2検定）【実技】【小テスト】
8.　2つの平均値に差があるか調べよう：対応のないｔ検定 【実技】【小テスト】
9.　2つの平均値に差があるか調べよう：対応のあるｔ検定　【実技】【小テスト】
10．2項目間の関連を調べよう（相関係数）　【実技】【小テスト】
11．3つ以上のグループ間に差があるか調べよう：一元配置分散分析　【実技】
12．どこの組み合わせに差がある？：分散分析後の多重比較 【実技】【小テスト】
13．調査データの集計・分析① 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】
14．調査データの集計・分析② 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】
15．調査データの集計・分析③ 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する(各授業に対して30分)
【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

価の基準内容の編集 【到達目標の評価方法】
　・データ収集の考え方、データの測定方法やその水準、仮説検定の考え方など、データ分析の基礎的知識について説明できるようになる（授業内の課題25%　レポート5%）
　・データの水準に応じて、どのような解析方法を選択すべきか理解できるようになる（授業内の課題10%、レポート15%）
　・代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用し、データ解析ができるようになる（授業内の課題15%、レポート15%）
　・心理学のレポートのルールに則って、データ解析の結果を報告することができる（レポート15%）

総じて、レポート50%+授業内での課題50%によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習を含む科目なので、
毎回の授業に出席すること。

【フィードバック】授業内に行なう課題の成績のフィードバックについては授業終了時までに全て行なう。また、課題の中で誤りが多い点については授業内で再度説明し、理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】　向後千春・富永敦子「統計学がわかる」技術評論社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

＊心理学統計法、情報処理演習の授業内容をしっかり復習しておくこと
＊授業は演習が中心であり、学んだことを確認するための小テストが頻繁に行われるため、遅刻・欠席は極力しないこと

科　目　名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下　倫実		
ナンバリング	ECc1022		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Cクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

全ての受講生が既に履修している必修科目「心理学統計法」と関連がある科目である。1年次に学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。

②科目の概要

　科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視される。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。本科目では統計的な考え方の基礎を復習しながら、パソコンを用いてデータの処理方法について学ぶ。

③授業の方法（ALを含む）

　本科目は演習科目であり、パソコンを用いてExcelでデータを集計・解析する方法を学ぶ。最終的に、授業内で実施する調査結果について、これまで学んだデータ解析方法を駆使し、レポートにまとめ提出する。【実技】【小テスト】【レポート（知識）】【レポート（表現)】

④到達目標

　・データ収集の考え方、データの測定方法やその水準、仮説検定の考え方など、データ分析の基礎的知識について説明できるようになる

　・データの水準に応じて、どのような解析方法を選択すべきか理解できるようになる

　・代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用し、データ解析ができるようになる

　・心理学のレポートのルールに則って、データ解析の結果を報告することができる

⑤ディプロマポリシーとの関連

　この科目は心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。①-5「客観的・論理的解釈」、②-3「客観的・科学的な解釈」

内容

この授業は講義に加え、実習を取り入れながら、学びを深めていく。

1.　ガイダンス‐心理学情報処理法で何を学ぶのか
2.　尺度の水準と解析方法の選択（質的データと量的データ）【小テスト】
3.　グラフで表現してデータの特徴をつかもう（表とグラフの作成）【小テスト】
4.　統計処理の基本：平均値、度数分布、標準偏差を計算する 【実技】【小テスト】
5.　標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう　【実技】【小テスト】
6.　2項目間の偏りを調べようⅠ（クロス集計表とχ2検定）【実技】
7.　2項目間の偏りを調べようⅡ（クロス集計表とχ2検定）【実技】【小テスト】
8.　2つの平均値に差があるか調べよう：対応のないｔ検定 【実技】【小テスト】
9.　2つの平均値に差があるか調べよう：対応のあるｔ検定　【実技】【小テスト】
10．2項目間の関連を調べよう（相関係数）　【実技】【小テスト】
11．3つ以上のグループ間に差があるか調べよう：一元配置分散分析　【実技】
12．どこの組み合わせに差がある？：分散分析後の多重比較 【実技】【小テスト】
13．調査データの集計・分析① 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】
14．調査データの集計・分析② 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】
15．調査データの集計・分析③ 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する(各授業に対して30分)
【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

価の基準内容の編集 【到達目標の評価方法】
　・データ収集の考え方、データの測定方法やその水準、仮説検定の考え方など、データ分析の基礎的知識について説明できるようになる（授業内の課題25%　レポート5%）
　・データの水準に応じて、どのような解析方法を選択すべきか理解できるようになる（授業内の課題10%、レポート15%）
　・代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用し、データ解析ができるようになる（授業内の課題15%、レポート15%）
　・心理学のレポートのルールに則って、データ解析の結果を報告することができる（レポート15%）

総じて、レポート50%+授業内での課題50%によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習を含む科目なので、
毎回の授業に出席すること。

【フィードバック】授業内に行なう課題の成績のフィードバックについては授業終了時までに全て行なう。また、課題の中で誤りが多い点については授業内で再度説明し、理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】　向後千春・富永敦子「統計学がわかる」技術評論社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

＊心理学統計法、情報処理演習の授業内容をしっかり復習しておくこと
＊授業は演習が中心であり、学んだことを確認するための小テストが頻繁に行われるため、遅刻・欠席は極力しないこと

科　目　名	心理学情報処理法		
担当教員名	奥村　基生、山下　倫実		
ナンバリング	ECc1022		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Dクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

全ての受講生が既に履修している必修科目「心理学統計法」と関連がある科目である。1年次に学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。

②科目の概要

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視される。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。本科目では統計的な考え方の基礎を復習しながら、パソコンを用いてデータの処理方法について学ぶ。

③授業の方法（ALを含む）

本科目は演習科目であり、パソコンを用いてExcelでデータを集計・解析する方法を学ぶ。最終的に、授業内で実施する調査結果について、これまで学んだデータ解析方法を駆使し、レポートにまとめ提出する。【実技】【小テスト】【レポート（知識）】【レポート（表現)】

④到達目標

・データ収集の考え方、データの測定方法やその水準、仮説検定の考え方など、データ分析の基礎的知識について説明できるようになる

・データの水準に応じて、どのような解析方法を選択すべきか理解できるようになる

・代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用し、データ解析ができるようになる

・心理学のレポートのルールに則って、データ解析の結果を報告することができる

⑤ディプロマポリシーとの関連

この科目は心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。①-5「客観的・論理的解釈」、②-3「客観的・科学的な解釈」

内容

この授業は講義に加え、実習を取り入れながら、学びを深めていく。

1.　ガイダンス‐心理学情報処理法で何を学ぶのか
2.　尺度の水準と解析方法の選択（質的データと量的データ）【小テスト】
3.　グラフで表現してデータの特徴をつかもう（表とグラフの作成）【小テスト】
4.　統計処理の基本：平均値、度数分布、標準偏差を計算する 【実技】【小テスト】
5.　標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう　【実技】【小テスト】
6.　2項目間の偏りを調べようⅠ（クロス集計表とχ2検定）【実技】
7.　2項目間の偏りを調べようⅡ（クロス集計表とχ2検定）【実技】【小テスト】
8.　2つの平均値に差があるか調べよう：対応のないｔ検定 【実技】【小テスト】
9.　2つの平均値に差があるか調べよう：対応のあるｔ検定　【実技】【小テスト】
10．2項目間の関連を調べよう（相関係数）　【実技】【小テスト】
11．3つ以上のグループ間に差があるか調べよう：一元配置分散分析　【実技】
12．どこの組み合わせに差がある？：分散分析後の多重比較 【実技】【小テスト】
13．調査データの集計・分析① 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】
14．調査データの集計・分析② 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】
15．調査データの集計・分析③ 【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】実習する統計手法についてテキストや配布資料をよく読み、統計的処理に必要なエクセルの操作を予習する(各授業に対して30分)
【事後学修】毎週、授業の最初に前回実習した統計手法について課題を出すので、配布資料やテキストなどを使って復習し、授業内での課題に備える（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

価の基準内容の編集 【到達目標の評価方法】
　・データ収集の考え方、データの測定方法やその水準、仮説検定の考え方など、データ分析の基礎的知識について説明できるようになる（授業内の課題25%　レポート5%）
　・データの水準に応じて、どのような解析方法を選択すべきか理解できるようになる（授業内の課題10%、レポート15%）
　・代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用し、データ解析ができるようになる（授業内の課題15%、レポート15%）
　・心理学のレポートのルールに則って、データ解析の結果を報告することができる（レポート15%）

総じて、レポート50%+授業内での課題50%によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習を含む科目なので、
毎回の授業に出席すること。

【フィードバック】授業内に行なう課題の成績のフィードバックについては授業終了時までに全て行なう。また、課題の中で誤りが多い点については授業内で再度説明し、理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】　向後千春・富永敦子「統計学がわかる」技術評論社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

＊心理学統計法、情報処理演習の授業内容をしっかり復習しておくこと
＊授業は演習が中心であり、学んだことを確認するための小テストが頻繁に行われるため、遅刻・欠席は極力しないこと

科　目　名	**心理学実験**		
担当教員名	山下　倫実、綿井　雅康		
ナンバリング	ECc1023		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Aクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や４年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。また、公認心理師資格に対応する科目でもある。

②科目の概要

　受講生は少人数のグループに分かれて、心理学の実験に参加する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。

さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて分析し、各自が実験レポート作成を行う。心理学実験で行なう実習は5課題であり、5課題についてレポートを作成する必要がある。

③授業の方法（ALを含む）

　本科目は演習科目であり、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。

【実験】【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現)】

④到達目標

・心理学の実験の施行について学び、実験や調査を正しく実施できる

・実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎力を身につける

・心理学の実験で得られたデータを解析し、得られた結果を正しく解釈できる

・心理学のレポートをルールに則って書くことができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

　この科目は心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

　①-2「実証的研究方法の理解」、①-5「客観的・論理的解釈」、②-3「客観的・科学的な解釈」

内容

この授業は演習科目であり、実習およびグループディスカッション、レポート作成を通して学びを深めていく。

1.ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方

2.実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として２週連続して行う。

(1)集中度と瞬目回数との関連の検討
(2)囚人のジレンマ
(3)二点弁別閾
(4)心的回転
(5)調査法１：尺度作成
(6)調査法２：集計解析

3.レポート講評：６つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

＊各実験課題について、①実施、②結果の整理、③レポートの講評を行う。
【実験】【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

＊約２０人で１班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。
＊レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組む必要がある。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストを使って、各実験課題の概要や手順の下調べをする。分からない心理学・統計の用語については調べてノートにまとめる(各授業に対して30分)
【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する（各授業に対して90分以上）

評価方法および評価の基準

【到達目標の評価方法】
15回の授業のうち、12回以上出席した学生を評価対象とする。
また、遅刻は２回で欠席１回となるので注意すること。
各実験課題すべてについてレポートを提出した学生が評価対象である。
そのうえで、到達目標に沿って下記の配分で各科目の担当教員が採点し、
20点満点で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

①心理学の実験の施行について学び、実験や調査を正しく実施できる（20%）
②実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎力を身につける（15%）
③心理学の実験で得られたデータを解析し、得られた結果を正しく解釈できる（35%）
④心理学のレポートをルールに則って書くことができる（30%）

【フィードバック】提出したレポートについては基本的に授業内に返却する。授業内に講評も行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】
ガイダンス時にテキストを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

＊公認心理師資格対応科目である

＊人間発達演習を履修する要件の1つとなる科目であり、欠席・遅刻、レポートの未提出等は卒業に関わる

＊グループで実習を行う科目であり、非協力的な態度や欠席・遅刻などでグループメンバーに迷惑をかけないようにする

＊「心理学統計法」、「心理学情報処理法」なども真面目に受講し、知識が活用できるよう復習しておく

科　目　名	**心理学実験**		
担当教員名	山下　倫実、平田　智秋		
ナンバリング	ECc1023		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Bクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や４年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。また、公認心理師資格に対応する科目でもある。

②科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、心理学の実験に参加する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。
さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて分析し、各自が実験レポート作成を行う。心理学実験で行なう実習は5課題であり、5課題についてレポートを作成する必要がある。

③授業の方法（ALを含む）

本科目は演習科目であり、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。
【実験】【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現)】

④到達目標

・心理学の実験の施行について学び、実験や調査を正しく実施できる
・実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎力を身につける
・心理学の実験で得られたデータを解析し、得られた結果を正しく解釈できる
・心理学のレポートをルールに則って書くことができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
①-2「実証的研究方法の理解」、①-5「客観的・論理的解釈」、②-3「客観的・科学的な解釈」

内容

この授業は演習科目であり、実習およびグループディスカッション、レポート作成を通して学びを深めていく。

1.ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方

2.実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として２週連続して行う。

(1)集中度と瞬目回数との関連の検討
(2)囚人のジレンマ
(3)二点弁別閾
(4)心的回転
(5)調査法１：尺度作成
(6)調査法２：集計解析

3.レポート講評：６つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

＊各実験課題について、①実施、②結果の整理、③レポートの講評を行う。
【実験】【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

＊約２０人で１班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。
＊レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組む必要がある。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストを使って、各実験課題の概要や手順の下調べをする。分からない心理学・統計の用語については調べてノートにまとめる(各授業に対して30分)
【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する（各授業に対して90分以上）

評価方法および評価の基準

内容の編集　【到達目標の評価方法】
15回の授業のうち、12回以上出席した学生を評価対象とする。
また、遅刻は２回で欠席１回となるので注意すること。
各実験課題すべてについてレポートを提出した学生が評価対象である。
そのうえで、到達目標に沿って下記の配分で各科目の担当教員が採点し、
20点満点で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

①心理学の実験の施行について学び、実験や調査を正しく実施できる（20%）
②実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎力を身につける（15%）
③心理学の実験で得られたデータを解析し、得られた結果を正しく解釈できる（35%）
④心理学のレポートをルールに則って書くことができる（30%）

【フィードバック】提出したレポートについては基本的に授業内に返却する。授業内に講評も行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】ガイダンス時にテキストを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

＊公認心理師資格対応科目である
＊人間発達演習を履修する要件の1つとなる科目であり、欠席・遅刻、レポートの未提出等は卒業に関わる
＊グループで実習を行う科目であり、非協力的な態度や欠席・遅刻などでグループメンバーに迷惑をかけないようにする
＊「心理学統計法」、「心理学情報処理法」なども真面目に受講し、知識が活用できるよう復習しておく

科　目　名	**心理学実験**		
担当教員名	山下　倫実、風間　文明		
ナンバリング	ECc1023		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Cクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や４年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。また、公認心理師資格に対応する科目でもある。

②科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、心理学の実験に参加する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。
さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて分析し、各自が実験レポート作成を行う。心理学実験で行なう実習は5課題であり、5課題についてレポートを作成する必要がある。

③授業の方法（ALを含む）

本科目は演習科目であり、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。
【実験】【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現)】

④到達目標

・心理学の実験の施行について学び、実験や調査を正しく実施できる
・実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎力を身につける
・心理学の実験で得られたデータを解析し、得られた結果を正しく解釈できる
・心理学のレポートをルールに則って書くことができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
①-2「実証的研究方法の理解」、①-5「客観的・論理的解釈」、②-3「客観的・科学的な解釈」

内容

この授業は演習科目であり、実習およびグループディスカッション、レポート作成を通して学びを深めていく。

1.ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方

2.実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として２週連続して行う。

(1)集中度と瞬目回数との関連の検討
(2)囚人のジレンマ
(3)二点弁別閾
(4)心的回転
(5)調査法１：尺度作成
(6)調査法２：集計解析

3.レポート講評：６つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

＊各実験課題について、①実施、②結果の整理、③レポートの講評を行う。
【実験】【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

＊約２０人で１班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。
＊レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組む必要がある。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストを使って、各実験課題の概要や手順の下調べをする。分からない心理学・統計の用語については調べてノートにまとめる(各授業に対して30分)
【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する（各授業に対して90分以上）

評価方法および評価の基準

内容の編集　【到達目標の評価方法】
15回の授業のうち、12回以上出席した学生を評価対象とする。
また、遅刻は２回で欠席１回となるので注意すること。
各実験課題すべてについてレポートを提出した学生が評価対象である。
そのうえで、到達目標に沿って下記の配分で各科目の担当教員が採点し、
20点満点で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

①心理学の実験の施行について学び、実験や調査を正しく実施できる（20%）
②実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎力を身につける（15%）
③心理学の実験で得られたデータを解析し、得られた結果を正しく解釈できる（35%）
④心理学のレポートをルールに則って書くことができる（30%）

【フィードバック】提出したレポートについては基本的に授業内に返却する。授業内に講評も行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】ガイダンス時にテキストを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

＊公認心理師資格対応科目である
＊人間発達演習を履修する要件の1つとなる科目であり、欠席・遅刻、レポートの未提出等は卒業に関わる
＊グループで実習を行う科目であり、非協力的な態度や欠席・遅刻などでグループメンバーに迷惑をかけないようにする
＊「心理学統計法」、「心理学情報処理法」なども真面目に受講し、知識が活用できるよう復習しておく

科　目　名	**心理学実験**		
担当教員名	山下　倫実		
ナンバリング	ECc1023		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Dクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や４年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。また、公認心理師資格に対応する科目でもある。

②科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、心理学の実験に参加する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて分析し、各自が実験レポート作成を行う。心理学実験で行なう実習は5課題であり、5課題についてレポートを作成する必要がある。

③授業の方法（ALを含む）

本科目は演習科目であり、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。【実験】【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

④到達目標

・心理学の実験の施行について学び、実験や調査を正しく実施できる
・実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎力を身につける
・心理学の実験で得られたデータを解析し、得られた結果を正しく解釈できる
・心理学のレポートをルールに則って書くことができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①-2「実証的研究方法の理解」、①-5「客観的・論理的解釈」、②-3「客観的・科学的な解釈」

内容

この授業は演習科目であり、実習およびグループディスカッション、レポート作成を通して学びを深めていく。

1.ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方

2.実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として２週連続して行う。

(1)集中度と瞬目回数との関連の検討
(2)囚人のジレンマ
(3)二点弁別閾
(4)心的回転
(5)調査法１：尺度作成
(6)調査法２：集計解析

3.レポート講評：６つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

＊各実験課題について、①実施、②結果の整理、③レポートの講評を行う。
【実験】【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

＊約２０人で１班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。
＊レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組む必要がある。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストを使って、各実験課題の概要や手順の下調べをする。分からない心理学・統計の用語については調べてノートにまとめる(各授業に対して30分)
【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する（各授業に対して90分以上）

評価方法および評価の基準

１５回の授業のうち、１２回以上出席した学生を評価対象とする。また、遅刻は２回で欠席１回となるので注意すること。
各実験課題すべてについてレポートを提出した学生が評価対象である。そのうえで、各レポート（20点×5＝100点）
により評価する。総合評価60点以上を合格とする。
【フィードバック】提出したレポートについては基本的に授業内に返却する。授業内に講評も行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ガイダンス時にテキストを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

＊公認心理師資格対応科目である
＊人間発達演習を履修する要件の1つとなる科目であり、欠席・遅刻、レポートの未提出等は卒業に関わる
＊グループで実習を行う科目であり、非協力的な態度や欠席・遅刻などでグループメンバーに迷惑をかけないようにする
＊「心理学統計法」、「心理学情報処理法」なども真面目に受講し、知識が活用できるよう復習しておく

科　目　名	**心理学実験**		
担当教員名	山下　倫実、石田　有理		
ナンバリング	ECc1023		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Eクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や４年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。また、公認心理師資格に対応する科目でもある。

②科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、心理学の実験に参加する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。
さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて分析し、各自が実験レポート作成を行う。心理学実験で行なう実習は5課題であり、5課題についてレポートを作成する必要がある。

③授業の方法（ALを含む）

本科目は演習科目であり、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。
【実験】【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現)】

④到達目標

・心理学の実験の施行について学び、実験や調査を正しく実施できる
・実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎力を身につける
・心理学の実験で得られたデータを解析し、得られた結果を正しく解釈できる
・心理学のレポートをルールに則って書くことができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
①-2「実証的研究方法の理解」、①-5「客観的・論理的解釈」、②-3「客観的・科学的な解釈」

内容

この授業は演習科目であり、実習およびグループディスカッション、レポート作成を通して学びを深めていく。

1.ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方

2.実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として２週連続して行う。

(1)集中度と瞬目回数との関連の検討
(2)囚人のジレンマ
(3)二点弁別閾
(4)心的回転
(5)調査法１：尺度作成
(6)調査法２：集計解析

3.レポート講評：６つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

＊各実験課題について、①実施、②結果の整理、③レポートの講評を行う。
【実験】【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

＊約２０人で１班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。
＊レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組む必要がある。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストを使って、各実験課題の概要や手順の下調べをする。分からない心理学・統計の用語については調べてノートにまとめる(各授業に対して30分)
【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する（各授業に対して90分以上）

評価方法および評価の基準

内容の編集　【到達目標の評価方法】
15回の授業のうち、12回以上出席した学生を評価対象とする。
また、遅刻は２回で欠席１回となるので注意すること。
各実験課題すべてについてレポートを提出した学生が評価対象である。
そのうえで、到達目標に沿って下記の配分で各科目の担当教員が採点し、
20点満点で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

①心理学の実験の施行について学び、実験や調査を正しく実施できる（20%）
②実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎力を身につける（15%）
③心理学の実験で得られたデータを解析し、得られた結果を正しく解釈できる（35%）
④心理学のレポートをルールに則って書くことができる（30%）

【フィードバック】提出したレポートについては基本的に授業内に返却する。授業内に講評も行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】ガイダンス時にテキストを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

＊公認心理師資格対応科目である
＊人間発達演習を履修する要件の1つとなる科目であり、欠席・遅刻、レポートの未提出等は卒業に関わる
＊グループで実習を行う科目であり、非協力的な態度や欠席・遅刻などでグループメンバーに迷惑をかけないようにする
＊「心理学統計法」、「心理学情報処理法」なども真面目に受講し、知識が活用できるよう復習しておく

科　目　名	**心理学実験**		
担当教員名	山下　倫実、安田　哲也		
ナンバリング	ECc1023		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Fクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や４年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。また、公認心理師資格に対応する科目でもある。

②科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、心理学の実験に参加する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。
さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて分析し、各自が実験レポート作成を行う。心理学実験で行なう実習は5課題であり、5課題についてレポートを作成する必要がある。

③授業の方法（ALを含む）

本科目は演習科目であり、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。
【実験】【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現)】

④到達目標

・心理学の実験の施行について学び、実験や調査を正しく実施できる
・実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎力を身につける
・心理学の実験で得られたデータを解析し、得られた結果を正しく解釈できる
・心理学のレポートをルールに則って書くことができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
①-2「実証的研究方法の理解」、①-5「客観的・論理的解釈」、②-3「客観的・科学的な解釈」

内容

この授業は演習科目であり、実習およびグループディスカッション、レポート作成を通して学びを深めていく。

1.ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方

2.実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として２週連続して行う。

(1)集中度と瞬目回数との関連の検討
(2)囚人のジレンマ
(3)二点弁別閾
(4)心的回転
(5)調査法１：尺度作成
(6)調査法２：集計解析

3.レポート講評：６つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

＊各実験課題について、①実施、②結果の整理、③レポートの講評を行う。
【実験】【実技】【グループワーク】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

＊約２０人で１班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。
＊レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組む必要がある。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストを使って、各実験課題の概要や手順の下調べをする。分からない心理学・統計の用語については調べてノートにまとめる(各授業に対して30分)
【事後学修】各実験課題ごとに、得られたデータの分析を行い、実験レポートを作成し提出する（各授業に対して90分以上）

評価方法および評価の基準

内容の編集　【到達目標の評価方法】
15回の授業のうち、12回以上出席した学生を評価対象とする。
また、遅刻は２回で欠席１回となるので注意すること。
各実験課題すべてについてレポートを提出した学生が評価対象である。
そのうえで、到達目標に沿って下記の配分で各科目の担当教員が採点し、
20点満点で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

①心理学の実験の施行について学び、実験や調査を正しく実施できる（20%）
②実験の目的にそって選定された「要因」を実際に測定する体験を通して、実験計画立案の基礎力を身につける（15%）
③心理学の実験で得られたデータを解析し、得られた結果を正しく解釈できる（35%）
④心理学のレポートをルールに則って書くことができる（30%）

【フィードバック】提出したレポートについては基本的に授業内に返却する。授業内に講評も行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】ガイダンス時にテキストを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

＊公認心理師資格対応科目である
＊人間発達演習を履修する要件の1つとなる科目であり、欠席・遅刻、レポートの未提出等は卒業に関わる
＊グループで実習を行う科目であり、非協力的な態度や欠席・遅刻などでグループメンバーに迷惑をかけないようにする
＊「心理学統計法」、「心理学情報処理法」なども真面目に受講し、知識が活用できるよう復習しておく

科　目　名	社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）		
担当教員名	風間　文明		
ナンバリング	ECd1036		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Aクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

心理学科の必修科目であり、社会心理学の研究成果と研究方法について理解を深め、基礎的な知識と社会心理学的な人間理解の観点を学修する。コミュニケーションの心理学、対人関係の心理学、結婚と恋愛の科学、グループ･ダイナミックス、産業・組織心理学などの基礎となる。また公認心理師資格に対応する科目でもある。

②科目の概要

社会心理学の「社会」とは他者がいる状況を意味する。私たちの日常生活は、ほとんどが他者のいる状況だといえる。したがって社会心理学は、日常生活の中で私たちが他者から受ける影響や逆に他者に与える影響を問題とし、そこに潜む法則性を明らかにしていく心理学の一領域ということができる。「どうやったら人からもっと好かれるかしら？」「どうやったらあの人を説得できるか？」「グループをうまくまとめたいのだけど・・」など、私たちが普段感じる疑問の中のいくつかはそのまま社会心理学の問題になり得るものである。本講義では、社会心理学の研究成果について日常的な現象と結びつけながら、わかりやすく解説する。

③授業の方法

講義による解説を中心とする。グループでのディスカッションや授業内容に関連する心理尺度、小テストなども実施する。【討議・討論】【実技】【ミニテスト】【リアクションペーパー】

④到達目標

１．社会心理学領域の基礎的な専門用語の意味を理解し、説明できる
２．社会心理学の研究方法を理解し、数値やグラフで示された研究結果を読み取ることができる
３．社会心理学の研究成果や理論を理解し、日常生活にあてはめて見ることができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
①-1基本的理念・概念の理解　　①-2実証的研究方法の理解　　②-2分析的思考

内容

1	ガイダンス：社会心理学とは【リアクションペーパー】
2	対人認知と印象形成【実技】【リアクションペーパー】
3	ステレオタイプ【実技】【リアクションペーパー】
4	原因を考える(1)帰属過程【討議・討論】【リアクションペーパー】
5	原因を考える(2)帰属的研究【ミニテスト】
6	対人関係(1)：他者を好きになる【討議・討論】【リアクションペーパー】
7	対人関係(2)：対人魅力の規定因【リアクションペーパー】
8	対人関係(3)：対人関係の進展【リアクションペーパー】
9	対人関係(4)：恋愛【実技】【リアクションペーパー】
10	まとめ【ミニテスト】
11	対人行動(1)：説得と態度変容【リアクションペーパー】
12	集団内での個人の行動【リアクションペーパー】
13	リーダーシップ【リアクションペーパー】
14	自己【リアクションペーパー】
15	まとめ【ミニテスト】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次の授業でとりあげるキーワードについて調べ、ノートにまとめる。（30分）

【事後学修】授業時のノートと配付資料を基に、理解した内容をノートに整理する。（60分）

評価方法および評価の基準

期末テスト60%（到達目標１～３を評価する）＋中間テスト30%（到達目標１～３を評価する）＋授業内の課題10%（到達目標１と２を評価する）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーの質問には回答する。中間テスト、授業内での課題は採点の上、返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。資料を配付する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

成績が合格点に達しなかった場合には再試験を行います。

社会心理学は、私たちの日常生活の中でみられる様々な現象と密着に関わっています。本講義で習得した社会心理学の知識や理論を使って日常生活を心理学的に視られる目を養ってほしいです。

科　目　名	社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）		
担当教員名	風間　文明		
ナンバリング	ECd1036		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Bクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

心理学科の必修科目であり、社会心理学の研究成果と研究方法について理解を深め、基礎的な知識と社会心理学的な人間理解の観点を学修する。コミュニケーションの心理学、対人関係の心理学、結婚と恋愛の科学、グループ･ダイナミックス、産業・組織心理学などの基礎となる。また公認心理師資格に対応する科目でもある。

②科目の概要

社会心理学の「社会」とは他者がいる状況を意味する。私たちの日常生活は、ほとんどが他者のいる状況だといえる。したがって社会心理学は、日常生活の中で私たちが他者から受ける影響や逆に他者に与える影響を問題とし、そこに潜む法則性を明らかにしていく心理学の一領域ということができる。「どうやったら人からもっと好かれるかしら？」「どうやったらあの人を説得できるか？」「グループをうまくまとめたいのだけど・・」など、私たちが普段感じる疑問の中のいくつかはそのまま社会心理学の問題になり得るものである。本講義では、社会心理学の研究成果について日常的な現象と結びつけながら、わかりやすく解説する。

③授業の方法

講義による解説を中心とする。グループでのディスカッションや授業内容に関連する心理尺度、小テストなども実施する。【討議・討論】【実技】【ミニテスト】【リアクションペーパー】

④到達目標

１．社会心理学領域の基礎的な専門用語の意味を理解し、説明できる
２．社会心理学の研究方法を理解し、数値やグラフで示された研究結果を読み取ることができる
３．社会心理学の研究成果や理論を理解し、日常生活にあてはめて見ることができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
①-1基本的理念・概念の理解　　①-2実証的研究方法の理解　　②-2分析的思考

内容

1	ガイダンス：社会心理学とは【リアクションペーパー】
2	対人認知と印象形成【実技】【リアクションペーパー】
3	ステレオタイプ【実技】【リアクションペーパー】
4	原因を考える(1)帰属過程【討議・討論】【リアクションペーパー】
5	原因を考える(2)帰属的研究【ミニテスト】
6	対人関係(1)：他者を好きになる【討議・討論】【リアクションペーパー】
7	対人関係(2)：対人魅力の規定因【リアクションペーパー】
8	対人関係(3)：対人関係の進展【リアクションペーパー】
9	対人関係(4)：恋愛【実技】【リアクションペーパー】
10	まとめ【ミニテスト】
11	対人行動(1)：説得と態度変容【リアクションペーパー】
12	集団内での個人の行動【リアクションペーパー】
13	リーダーシップ【リアクションペーパー】
14	自己【リアクションペーパー】
15	まとめ【ミニテスト】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次の授業でとりあげるキーワードについて調べ、ノートにまとめる。（30分）

【事後学修】授業時のノートと配付資料を基に、理解した内容をノートに整理する。（60分）

評価方法および評価の基準

期末テスト60%（到達目標１～３を評価する）＋中間テスト30%（到達目標１～３を評価する）＋授業内の課題10%（到達目標１と２を評価する）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーの質問には回答する。中間テスト、授業内での課題は採点の上、返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。資料を配付する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

成績が合格点に達しなかった場合には再試験を行います。

社会心理学は、私たちの日常生活の中でみられる様々な現象と密着に関わっています。本講義で習得した社会心理学の知識や理論を使って日常生活を心理学的に視られる目を養ってほしいです。

科　目　名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井　雅康		
ナンバリング	ECd2037		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

（一財）テニクカルコミュニケーター協会会長としてサービス・製品の使用説明における情報提供の質的向上に取り組んだ経験を、心理学的知見・理論の説明に取り入れる。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は、学科専門「社会科目領域」に配置された選択科目である。「社会科目領域」の科目学修にとって基礎的な位置づけであり，社会活動の基盤をなすコミュニケーションに対する心理学的な理解を獲得させること目指す。

②科目の概要

本科目では，人々が営むコミュニケーション行動に関して明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を扱う。授業では心理学的な知見を知識として獲得し，それを身の回りの出来事に当てはめ解釈する態度や力を養う。

③授業の方法（ＡＬを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、少人数によるディスカッション、ＷＥＢを利用したミニ・レポート提出を取り入れた授業を行う。【ディスカッション、ミニ・レポート】

④到達目標

1.コミュニケーションの仕組みに関する心理学的知見を説明できる

2.コミュニケーション行動に関する理論や法則性を日常生活での行動に適用して解釈・分析できる

3.本科目での学修成果を用いて、円滑なコミュニケーションを実現しようと工夫する

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーにおける次の資質・能力を育成することを目的とする。

②－２：分析的思考、③－３：課題発見・解決

内容

1	コミュニケーション行動と心理学
2	対人コミュニケーションの成立　【ディスカッション】
3	対人コミュニケーションの特徴　【ミニ・レポート】
4	言語とコミュニケーション
5	言語コミュニケーションの特質　【ミニ・レポート】
6	非言語メディアによるコミュニケーション　【ディスカッション】
7	自己開示の概念と領域
8	自己開示が果たす機能　【ミニ・レポート】

9	自己開示を規定する要因
10	自己呈示と社会的スキル　【ディスカッション】
11	防衛的自己呈示と主張的自己提示　【ミニ・レポート】
12	他者を動かすコミュニケーション（要請承諾・説得）
13	説得的コミュニケーションと態度変容　【ディスカッション】
14	要請技法と心理的効果
15	まとめ（全員）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】1回：自らのコミュニケーションを振り返り素朴な疑問や課題を言語化しておく［20分］。　2〜14回：テキストの各授業回の内容に該当する部分を読み理解できることを明確にする[30分]。　15回：本科目の到達目標に沿って授業内容を復習し説明や分析できるようにする［90分］。

【事後学修】1〜3回：対人コミュニケーションを説明分析できるよう学修内容をまとめる［40分]。　4〜6回：言語や非言語記号の役割や特性を日常場面でも説明分析できるよう学修内容をまとめる[40分]。　7〜11回：自分を示すコミュニケーション活動の機能や特性を説明分析できるよう学修内容をまとめる[40分]。　12〜14回：他者の態度を変容させることを心理学的な知見から説明できるように学修内容をまとめる[40分]。

評価方法および評価の基準

授業内で指示した課題への回答（25%)と筆記試験（75%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標１．課題回答(５%／25%）、筆記試験(30%／75%)

到達目標２．課題回答(10%／25%）、筆記試験(20%／75%)

到達目標３．課題回答(10%／25%）、筆記試験(25%／75%)

【フィードバック】課題への回答については授業内でコメントする。筆記試験については、模範解答を提示し事後学修での確認を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】深田博己著『インターパーソナルコミュニケーション』北大路書房 1998

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業で解説された事項を自らの体験や考えと結びつけることを意識して下さい。

科　目　名	感情・人格心理学		
担当教員名	角尾　美奈		
ナンバリング	ECe2046		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

心理学科の選択科目であり、近接領域の様々な科目の基礎となる。公認心理師資格に対応する科目である。

②科目の概要

感情・人格心理学は、私たちそれぞれが持つ「その人らしさ」を対象とする学問である。感情や人格について学ぶことは、自分自身のみならず他者への理解を深めることであり、自他の存在を尊重しながら社会生活を構成する態度を養う作業とも言えるだろう。本授業では、感情や人格に関する基礎的・概論的な知識について学修する。

③授業の方法（ALを含む）

基本的に講義形式の授業だが、適宜質問を投げかけ、能動的な学修を促す。また、必要に応じ映像を取り入れたり、授業内容に関連した心理尺度なども実施する。　【実技】【リアクションペーパー】【レポート】【ミニテスト】

④到達目標

1. 感情・人格心理学における基礎的理論や概念を理解し、説明できる。
2. 感情・人格に関する様々な経験について、主観的理解と科学的理解を区別して判断できる。
3. 日常生活での体験や身近な現象に関心を持ち、主体的に調べ考察することができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①-1 基本的理念・概念の理解

②-1 実証的・科学的思考

③-1 興味・関心、主体的な姿勢

内容

1	イントロダクション（授業の目的、内容、評価方法等の説明）　【リアクションペーパー】
2	感情の基礎　【リアクションペーパー】

3	感情の理論　【リアクションペーパー】
4	感情と行動　【リアクションペーパー】
5	感情のコントロール　【実技】【リアクションペーパー】
6	感情の測定　【実技】【リアクションペーパー】
7	まとめ　【ミニテスト】
8	人格の概念　【リアクションペーパー】
9	知的機能の個人差　【リアクションペーパー】
10	人格の形成と変容　【リアクションペーパー】
11	人格の理論　【リアクションペーパー】
12	人格と対人関係　【レポート】
13	感情・人格の障害　【リアクションペーパー】
14	感情・人格とメンタルヘルス　【リアクションペーパー】
15	まとめ　【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回授業で取り上げるトピックについて調べておく（30分）

【事後学修】授業で学修した内容を復習し、知識を定着させ理解を深める（60分）

評価方法および評価の基準

期末試験50%（到達目標1、2を評価）＋ミニテスト30%（到達目標1、2を評価）＋リアクションペーパー10%（到達目標1～3を評価）＋レポート10%（到達目標1～3を評価）により評価する。総合得点60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーとレポートは授業内で返却し全体講評を行う。ミニテストは採点の上返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】【参考図書】適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容は、履修者の状況や授業の進捗状況により多少変更する場合がある。

科　目　名	**心理学リテラシー**		
担当教員名			
ナンバリング	ECe0047		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年		ク　ラ　ス	1Aクラス
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単　位　数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

この科目は、学生の習熟の程度に合わせきめ細かく指導を行い、心理学を学ぶ基礎となるリテラシーを高めることをねらう授業である。

②科目の概要

心理学を学ぶ基礎となるリテラシーの要素として、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力がある。これらを、初年度に確実に身につけるため、習熟の程度に合わせて、コース選択を行い、少人数で授業を進める。

③授業の方法（ALを含む）

各学生の習熟度に合わせて、少人数クラス指導で展開する。

④到達目標

・心理学を学ぶ上で自分自身の課題を自覚し、取り組むことができる。
・科学的な文章を読解し、主題について分析・評価できる。
・心理学的な統計の基礎知識を理解できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
①-1基本的理念・概念の理解
②-3客観的・科学的な解釈
③-2知識・理解を活用する意欲

内容

第１回　授業の概要説明　数学または国語のコース選択の実施

第２回～第１４回まではクラスに分かれて下記の内容で展開する。
<数学・基礎クラス>
学科の学修に必要となる数学の内容に特化して理解する。

<数学・補充クラス>
数学の基礎的な内容から復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。
<国語クラス>
心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。

第１５回目は各クラスとも、まとめを行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業のテキストの内容を確認し、自分自身の課題を把握して授業に臨む（60分）。
【事後学修】テキストの確認問題に取り組み、理解をより確実なものとする（60分）。

評価方法および評価の基準

平常点３割、総合試験７割とし、総合評価６０点以上を合格とする。
　到達目標１．平常点(１０％)、総合試験(１５％)
　到達目標２．平常点(１０％)、総合試験(３０％)
　到達目標３．平常点(１０％)、総合試験(２５％)

【フィードバック】課題はコメントを記入し講義内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない
【推薦書】講義中に適宜、紹介する。
【参考図書】中・高等学校で使用した教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

苦手意識を持たず、積極的に講義に参加すること。

科　目　名	**心理学リテラシー**		
担当教員名			
ナンバリング	ECe0047		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年		ク　ラ　ス	1Bクラス
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単　位　数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

この科目は、学生の習熟の程度に合わせきめ細かく指導を行い、心理学を学ぶ基礎となるリテラシーを高めることをねらう授業である。

②科目の概要

心理学を学ぶ基礎となるリテラシーの要素として、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力がある。これらを、初年度に確実に身につけるため、習熟の程度に合わせて、コース選択を行い、少人数で授業を進める。

③授業の方法（ALを含む）

各学生の習熟度に合わせて、少人数クラス指導で展開する。

④到達目標

・心理学を学ぶ上で自分自身の課題を自覚し、取り組むことができる。
・科学的な文章を読解し、主題について分析・評価できる。
・心理学的な統計の基礎知識を理解できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
①-1基本的理念・概念の理解
②-3客観的・科学的な解釈
③-2知識・理解を活用する意欲

内容

第１回　授業の概要説明　数学または国語のコース選択の実施

第２回～第１４回まではクラスに分かれて下記の内容で展開する。
<数学・基礎クラス>
学科の学修に必要となる数学の内容に特化して理解する。

<数学・補充クラス>
数学の基礎的な内容から復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。
<国語クラス>
心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。

第１５回目は各クラスとも、まとめを行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業のテキストの内容を確認し、自分自身の課題を把握して授業に臨む（60分）。
【事後学修】テキストの確認問題に取り組み、理解をより確実なものとする（60分）。

評価方法および評価の基準

平常点３割、総合試験７割とし、総合評価６０点以上を合格とする。
　到達目標１．平常点(１０％)、総合試験(１５％)
　到達目標２．平常点(１０％)、総合試験(３０％)
　到達目標３．平常点(１０％)、総合試験(２５％)

【フィードバック】課題はコメントを記入し講義内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない
【推薦書】講義中に適宜、紹介する。
【参考図書】中・高等学校で使用した教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

苦手意識を持たず、積極的に講義に参加すること。

科　目　名	子どもの発達と環境		
担当教員名	石田　有理		
ナンバリング	ECe2048		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

子どもを取り巻く環境に注目して子どもの発達を捉えることをねらいとしているため、基礎となる「発達心理学概論」を履修済であることが望ましい。

②科目の概要

子どもは産まれた瞬間から、子どもを取り巻く環境と相互作用しながら発達していく。子どもの発達に重要な環境は、物理的な環境だけでなく、養育者をはじめとする身近な大人や仲間などの人的な環境、また、より包括的な社会環境や文化的背景など、幅広い。また、現代では子どもを取り巻く環境は、大きくそして急速に変化している。本講義では、子どもの発達に重要な様々な環境についてトピック的に取り上げ、発達と環境の相互作用について考察していく。

③授業の方法

講義形式の授業に加えてグループでディスカッションをしたり、発表課題を行う。また、毎回ワークシートに記入しながら授業に参加することで、主体的な学びを促す。【リアクションペーパー】【討議・討論】【グループワーク】【プレゼンテーション】

④学修目標

1.子どもを取り巻く環境にはどのようなものがあるかを知る。
2.子どもを取り巻く環境が子どもの発達にどのように関与するのかについて理解を深める。
3.現代の子どもたちを取り巻く状況に対して問題意識を持って、望ましい環境のあり方を考える。

⑤ディプロマポリシーとの関係

この科目は心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することが目標とする。
①-4　心理学の理論・概念・技能の理解　②-2分析的思考　③-2知識・理解を活用する意欲

内容

1	人間の発達の特殊性：子どもの発達をとらえる[リアクションペーパー]
2	子どもの発達における環境との相互作用[リアクションペーパー]

3	親子関係の発達：アタッチメントとは[リアクションペーパー]
4	親子関係の発達：家族というシステム[リアクションペーパー][討論・討議]
5	現在の子育て事情[リアクションペーパー][グループワーク]
6	少子化社会の家族・地域[リアクションペーパー][プレゼンテーション]
7	文化的背景と子育て[リアクションペーパー]
8	言語の発達と環境：前言語期[リアクションペーパー]
9	言語の発達と環境：言語の発生[リアクションペーパー]
10	言語の発達と環境：学校の中での言語[リアクションペーパー]
11	子どもの文化：遊びの中にある学び[リアクションペーパー]
12	子どもとメディア[リアクションペーパー][討論・討議]
13	集団と遊び体験[リアクションペーパー][グループワーク]
14	子どもの発達に資する環境とは[リアクションペーパー][プレゼンテーション]
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】提示されたトピックについて自分の経験を振り返ったり調べたりして考えをまとめておく（各授業に対して６０分）

【事後学修】講義内で紹介した知見や考え方をふまえて、疑問点を調べたり、考察を深めたりすること（各授業に対して３０分）

評価方法および評価の基準

講義内での課題や小レポート（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）とし、総合得点60点以上で
合格とする。

到達目標１　講義内での課題（10/40）　中間レポート（10/30）　最終レポート（10/30）

到達目標２　講義内での課題（15/40）　中間レポート（10/30）　最終レポート（10/30）

到達目標３　講義内での課題（15/40）　中間レポート（10/30）　最終レポート（10/30）

【フィードバック】レポート課題は授業内で講評を行う。中間レポート・最終レポートはコメントを記載して返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【参考図書】授業内で適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

知識を日常的な場面で活用することを意識してグループワークやレポートに取り組むことを望みます。

科　目　名	**教育心理学**		
担当教員名	綿井　雅康		
ナンバリング	ECf2057		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状／高等学校教諭一種免許状（保健）／中学校教諭一種免許状（保健）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

教育委員会の常設委員会委員および公立小中学校の学校評議員・学校運営協議会委員としての実務経験を生かし、教師の職務遂行に必要な心理学的知見の解説と活用方法を指導する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は、心理学科の専門科目「教育科目」領域に配置された選択科目である。初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す。同時に、養護教諭教職課程における教職に関する科目のうちの教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

②科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。特別な支援を必要とする児童生徒の理解についても扱う。受講生は指導のもとに学修活動に取り組む学生であるが、授業では「教える」「学ばせる」「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育活動や指導職務をとらえる視点を育むことも目指す。

③授業の方法（ALを含む）

本科目は、講義による解説を中心として、リアクションペーパーおよびグループワークを取り入れた授業を行う。

④到達目標

到達目標１．教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解する

到達目標２．教育心理学的な考え方や知識に基づいて、個々の児童生徒を理解していく手法を考える

到達目標３．より良い学習活動を展開するための工夫や特別な支援のあり方を、学修内容にもとづいて、具体的に作り出すことができる

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－１：基本的理論・概念の理解

内容

１．教育心理学と学校教育

２．学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求【グループワーク】

３．学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ

４．学習の基礎理論【リアクションペーパー】

５．教授学習における学習理論

６．協同学習の理論と実践　【グループワーク】

７．学級の心理学【リアクションペーパー】
８．学習の個性化、個別的ニーズへの対応
９．教育評価【リアクションペーパー】
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定【グループワーク】
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育【リアクションペーパー】
15. 学習のまとめと確認

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】
２～14回　各授業回に示された事項についてテキストを読んで概要を認識する [20分]。15回　本科目での学修を振り返り、獲得した知識や技法を適切に活用できるようにしておく[90分]。
【事後学修】
１回　心理学に対する自己の素朴な認識と学修内容の差違を明確にする[20分]。２～３回　やる気を高めるの教師の取り組みや心構えを文章にまとめる[40分]。４～５回　できるようになることの仕組みを文章にまとめる[40分]。６～８回　授業運営と学級経営に重要な事項を文章にまとめる[40分]。９回　評価と指導の表裏一体の意義を文章にまとめる[40分]。10～14回　児童生徒を多面的に理解する方法を文章にまとめる[40分]。15回　本科目で学び得たものを振り返る。[20分]

評価方法および評価の基準

　授業内課題（リアクションペーパーなど）への取り組み(15%)、まとめの筆記試験(85%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。
到達目標１．授業内課題(５%／15%）、まとめ試験(30%／85%)
到達目標２．授業内課題(５%／15%）、まとめ試験(25%／85%)
到達目標３．授業内課題(５%／15%）、まとめ試験(30%／85%)
【フィードバック】授業内課題は授業内で全体に対してコメントする、まとめの筆記試験については必要に応じて評価結果を返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】　櫻井茂男（編）『改訂版・たのしく学べる最新教育心理学』　図書文化社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	**学校保健Ⅰ**		
担当教員名	岡山　睦美		
ナンバリング	ECf1061		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

養護教諭として現場経験のある教員が実際に学校保健の実務に沿った内容で講義する。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。

②科目の概要

学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。

③授業の方法（ALを含む）

講義を中心に、小グループによるディスカッションやプレゼンテーションを行う。【ミニテスト】【グループワーク】【プレゼンテーション】

④到達目標

学校教育における学校保健の意義や機能について説明できる。

学校保健における基礎的事項について述べることができる。

学校保健における養護教諭の役割について説明できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①－１基礎理念・概念の理解

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク・プレゼンテーションを取り入れながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション・学校教育と学校保健
2	現代における子どもの健康問題【グループワーク】
3	学校保健の歴史とヘルスプロモーション
4	学校保健の意義と関連法規
5	学校保健経営計画と学校保健計画【グループワーク】

6	子どもの発育発達と学校保健
7	健康観察の意義と方法【ロールプレイング】
8	健康診断の意義と方法
9	養護教諭が行う健康相談　【小テスト】
10	健康教育の内容と意義
11	学校における疾病の管理と学校感染症予防
12	学校安全の概要と学校安全計画【プレゼンテーション】
13	学校環境衛生
14	学校組織活動の目的と内容　　【小テスト】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業に示してあるテキストの章を読み、理解しておく。［60分］

【事後学習】授業中に指示したテキストの練習問題を解く。［60分］

評価方法および評価の基準

学校教育における学校保健の意義や機能について説明できる。［筆記テスト20%、平常点10%］

学校保健における基礎的事項について述べることができる。［筆記テスト20%、レポート10%、平常点10%］

学校保健における養護教諭の役割について説明できる。［筆記テスト20%、平常点10%］

【フィードバック】提出されたレポート・試験は翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東山書房　養護教諭必携シリーズ　新版　学校保健　チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション

【推薦書】南山堂　学校保健マニュアル

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を実施する。

科　目　名	学校保健Ⅱ		
担当教員名	岡山　睦美		
ナンバリング	ECf2061		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

養護教諭として現場経験のある教員が学校保健の実務に沿った講義を行う。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。

②科目の概要

学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。

③授業の方法（ALを含む）

講義を中心に、小グループによるディスカッションやプレゼンテーションを行う。【ミニテスト】【グループワーク】【プレゼンテーション】

④到達目標

学校教育における学校保健の意義や機能について説明できる。
学校保健における基礎的事項について述べることができる。
学校保健における養護教諭の役割について説明できる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。
①－１基礎理念・概念の理解

内容

本科目では講義を基本にグループワーク・プレゼンテーションを取り入れながら学びを深めていく。

1	学校保健の意義と関連法規
2	学校保健活動と教職員の役割
3	学校保健計画・学校保健安全計画
4	健康診断の計画と進め方
5	慢性疾患のある児童生徒の疾病管理
6	学校行事と学校保健［グループワーク］

7	学校における予防すべき感染症と対策
8	心身の健康課題への対応
9	保健室経営と保健室経営計画［小テスト］
10	学校管理下の事故・災害時の対応
11	児童保健委員会と学校保健委員会［グループワーク］
12	保健指導①［プレゼンテーション］
13	保健指導②［プレゼンテーション］
14	学校給食と食育［小テスト］
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業に示してあるテキストの章を読み、理解しておく。［60分］

【事後学修】授業中に指示したテキストの練習問題を解く。［60分］

評価方法および評価の基準

学校教育における学校保健の意義や機能について説明できる。［筆記テスト20%、平常点10%］

学校保健における基礎的事項について述べることができる。［筆記テスト20%、レポート10%、平常点10%］

学校保健における養護教諭の役割について説明できる。［筆記テスト20%、平常点10%］

【フィードバック】提出されたレポート・試験は翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】学校保健安全法に対応した改定版学校保健　徳山美智子他　東山書房

【推薦書】学校保健マニュアル　衛藤隆他　南山堂

【参考図書】新版・養護教諭　執務の手引き　石川県養護教諭教育研究会編　東山書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を実施する。

科　目　名	**栄養学**		
担当教員名	端田　寛子		
ナンバリング	ECg2066		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

本科目は、養護教諭一種免許を取得するための必修科目である。養護教諭が生徒の健康管理を行う上で必要な栄養学・食品学の基礎を学修する。

②科目の概要

栄養の概念、ヒトが生きていくために必要な栄養素の種類と生理機能について学ぶ。さらに成長、発育、加齢による人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の変化について理解し、各ライフステージにおける望ましい食事のあり方を学修する。

③授業の方法

授業の最初に必ず前回の振返りを行う。問いかける形で授業を行うので、それに対して自ら答える気持ちを持って授業に参加していただく。

④到達目標

1．食品とそれに含まれる栄養素の性質や機能に関する基礎知識が理解できている。

2．成長、発育、加齢に伴う心身機能の変化と栄養の基礎を理解している。

3．健康の保持・増進における食の重要性を理解している。

⑤ディプロマポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①-1　基本的理念・概念の理解

③-4　理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの作業を取り入れながら、学びを深めていく。

1	食生活の意義
2	健康と栄養の歴史
3	健康と栄養に関わる行政
4	栄養学の基礎（１）タンパク質

5	栄養学の基礎（２）糖質
6	栄養学の基礎（３）脂質
7	栄養学の基礎（４）ビタミン・ミネラル
8	ライフステージと食生活（１）乳幼児期
9	ライフステージと食生活（２）学齢期
10	ライフステージと食生活（３）青年期・壮年期・老年期
11	安全面から見た食生活
12	環境面から見た食生活
13	健康のための食生活（１）飢餓・欠乏症への取り組み
14	健康のための食生活（２）肥満・生活習慣病への取り組み
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次回の講義で取り扱うテキストを事前に読み、理解を深めておく。自分なりに内容を整理しまとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義の内容については復習することを必修とし、配布資料等について各自で内容を理解し、深められるよう復習ノートを作成しておく。（各授業に対して60分）日頃から食に関心を持つ。

評価方法および評価の基準

中間テスト（30%）、定期試験（60%）、授業への取り組み（10%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1　中間テスト（20%/30%）、定期試験（15%/60%）

到達目標2　中間テスト（0%/30%）、定期試験（30%/60%）

到達目標3　中間テスト（10%/30%）、定期試験（15%/60%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学修理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田勉監修　堀坂宣弘・宮沢栄次編著「私たちの食と健康-食生活の諸相（第2版）」三共出版

【参考書】日本栄養・食糧学会編「栄養・食糧学用語辞典」建帛社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

日頃から「食」について興味を持ってください。

科　目　名	**免疫学**		
担当教員名	ハク　ランラン		
ナンバリング	ECg2067		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

人間発達心理に関与する免疫とアレルギーを扇元敬司著の教科書「わかりやすいアレルギー・免疫学講義（日本図書館協会推薦図書）」によって学ぶ。

②科目の概要

免疫とアレルギーについて教科書項目に沿って解説する。さらにその後、要点とまとめをわかりやすくスライド（PowerPoint)で説明する。尚使用した「スライド」は講義終了後に学内ネットワーク【フォルダUドライブ】に開示して
学習の参考に供する。

③授業の方法は講義形態

授業内容をより分かりやすいように例を用いて説明する。
外国の生活環境・習慣で異なる免疫力ができることについての情報の提供をする。
中間筆記テストと期末筆記テスト、かつ授業の積極的な態度に基つく評価を行う。

④到達目標

免疫とアレルギーの基礎を理解することを学修目標とする。

１．高校で学んだ免疫とアレルギーの知識を整理することができる。
２．免疫とアレルギーの歴史について理解することができる。
３．自然免疫と獲得免疫について学ぶことができる。
４．感染症とワクチンについて理解することができる。
５．免疫異常とアレルギー型別について学ぶことができる。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科の免疫とアレルギーの基礎の資質・能力を育成することを目的とする。
①-1.基本的理念・概念の理解
③-4.理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

1	I部：生体防御・免疫システム。免疫学とアレルギーの歴史。

2	自然免疫システム
3	免疫を担当する器官と細胞
4	獲得免疫システム
5	サイトカイン・エフェクター細胞
6	感染症とワクチン・移植免疫と腫瘍免疫。中間まとめ
7	II部：免疫異常・アレルギー。エイズ・免疫不全症・自己免疫疾患
8	アレルギー・アナフラキシー
9	アレルギー対策・予防・検査法
10	アレルゲン
11	花粉症・鼻アレルギー・眼アレルギー
12	アトピー・アレルギー性鼻炎・蕁麻疹
13	小児アレルギー・気管支喘息
14	食物アレルギー・環境アレルギー・シックハウス
15	職業アレルギー・心理免疫アレルギー。まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】「チェックポイント」の全体把握。セルフチェック問題集A選択問題予習。学内LANパワーポイント予習。所要時間は30分。

【事後学修】「復習」の内容把握。「研究課題」解答。セルフチェック問題集B記述問題解答。学内LANパワーポイント解読。所要時間は15分。

評価方法および評価の基準

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】扇元敬司　著「わかりやすいアレルギー・免疫学講座」講談社（２００７）

【推薦書】扇元敬司　訳、K.Vedhara, M. Irwin著「心理免疫学概論」川島書店（２００８）

扇元敬司　著「やさしいバイオのための微生物学」講談社（２０１２）

扇元敬司　著「バイオのための基礎微生物学」講談社（２００２）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

合格点に満たなかった場合は課題に関するレポートを基つき評価を行う。

科　目　名	人体の構造と機能及び疾病		
担当教員名	竹嶋　伸之輔		
ナンバリング	ECg2068		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

人間発達心理学科ディプロマポリシーのうち、「1.心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて，人間及び人間の発達に対する多角的な見方ができる。」を達成するために１．人体の階層構造の理解　２．器官系の構造と機能の理解　３．病態の基礎の理解を目標とする。

②科目の概要

正常な人体の構造（つくり）や機能（はたらき）について、細胞、組織、血液、循環、呼吸、消化器、運動系、泌尿器、内分泌、生殖、神経系の各分野に分類し、各部の名称や構造と機能、および人体の恒常性の維持について理解する。また、これらの構成単位の知識に基づいて、がんや難病などをはじめとした、心理に関する支援が必要な様々な疾病についての理解を深める。

③授業の方法（ALを含む）

教科書をベースに講義を進める。

④到達目標

正常な人体の構造（つくり）・機能（はたらき）を学修する講義科目であり、人間発達心理学科の専門科目のうち公認心理師関連科目に属します。

公認心理師受験資格取得のために必要な心身機能と身体構造の基本を学び、疾病や障碍について基礎的な知識の習得を目指します。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

内容 教科書の解説を基本に、スライドを用いて授業を進めていく。

教科書に使用されている図表をもとに、ipadで必要事項を記入しながら理解を深める。

回 内容

1 はじめに
2 細胞と組織
3 消化器系
4 血液・造血器・リンパ系
5 循環器系
6 呼吸器系
7 腎・尿路系
8 生殖器系
9 骨格系
10 筋肉系と運動機能
11 内分泌系
12 神経系
13 感覚器系
14 免疫系
15 皮膚組織・体温調節・まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に提示した事項について、教科書を参照して予習する。
【事後学修】授業内容に基づく演習問題により復習する。

評価方法および評価の基準

授業態度2割、期末試験8割とし、総合評価60点以上を合格とする。
14回までの授業で2／3以上の出席を持って、期末試験の受験資格とする。
【フィードバック】
リアクションペーパーで行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】志村二三夫・岡　純・山田和彦（編著）栄養科学イラストレイテッド『解剖生理学』、羊土社
【推薦書】志村二三夫・岡　純・山田和彦（編著）栄養科学イラストレイテッド『解剖生理学ノート』、羊土社
【参考図書】田中越郎「イラストでまなぶ人体のしくみとはたらき第２番」医学書院、坂井建雄・橋本治詞「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教科書に用いられている図をもとに解説していきますので、かならず自分の教科書を用意してください。

科　目　名	**衛生学**		
担当教員名	佐藤　一朗		
ナンバリング	ECg2069		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

養護教員を目指すために必要な知識となる感染症およびその病原体について講義する。

②科目の概要

感染症を防ぎ、健やかな日々を送るためには知識や経験に基づく適切な予防が重要である。特に、養護教員を目指す学生は、感染症およびその病原体について幅広い知識を必要とする。そのため、感染症予防のため発生要因、病原微生物の形態、性質、それらによってもたらされる感染症について講義する。

③授業の方法（ALを含む）

この科目は教科書の内容を基本に、座学による講義を中心に豆テスト、ディスカッションを取り入れながら、感染症および微生物について学びを深めていく。【討議・討論】

④到達目標

日常生活で罹りうる感染症を意識できるようになる。

感染症に対する予防などを行うための基礎的な知識を身につける。

感染症を起こす病原体の性質について理解を深める。

ことを目標とする。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

①-1 基本的理念･概念の理解　③-4　理論･概念･知識･技能の主体的活用

内容

1	感染症に関する基本的理解【豆テスト】【ディスカッション】
2	感染症成立のための三要因【豆テスト】【ディスカッション】
3	免疫【豆テスト】【ディスカッション】
4	細菌の形態、培養、分類などに関する概論【豆テスト】【ディスカッション】
5	細菌の変異、遺伝的特徴【豆テスト】【ディスカッション】
6	ウイルス【豆テスト】【ディスカッション】
7	真菌【豆テスト】【ディスカッション】
8	原虫【豆テスト】【ディスカッション】
9	寄生虫【豆テスト】【ディスカッション】
10	感染症の診断・治療・予防・防御【豆テスト】【ディスカッション】

11	感染症各論1 細菌感染症【豆テスト】【ディスカッション】
12	感染症各論2 ウイルス感染症【豆テスト】【ディスカッション】
13	感染症各論3 その他の感染症【豆テスト】【ディスカッション】
14	感染症の疫学【豆テスト】【ディスカッション】
15	まとめ　講義内容の振り返りと総括【ディスカッション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に当該単元や関連書籍を通読しておくことが望ましい（各回に対して60分）。

【事後学修】何を理解し、何が理解できなかったのか整理し、次回講義時に質問できるようにまとめる（各回に対して60分）。

評価方法および評価の基準

【評価方法】豆テストおよび期末試験によって評価する。

教科書や講義内容よりも新しい知見を原記載となる論文等の資料とともに提示した場合、1件につき先着1名をS評価とする。

【評価の基準】豆テスト30%、期末試験70%とし、合計60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された豆テストには、適宜コメントを記載し翌週の講義内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】本田武司（編）はじめの一歩のイラスト感染症・微生物学。羊土社。ISBN978-4-7581-2023-4。

【参考図書】日本学校保健会（編）学校において予防すべき感染症の解説。丸善出版。ISBN978-4-903076-11-9。

阿部章夫（著）もっとよくわかる！感染症 病原因子と発症のメカニズム。羊土社。ISBN978-4-7581-2202-3。

池内昌彦 他「エッセンシャルキャンベル生物学」丸善。ISBN: 978-4621300992。など。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科　目　名	公認心理師の職責		
担当教員名	永作　稔		
ナンバリング	ECh2082		
学　　科	教育人文学部（E）-心理学科		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単　位　数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

公立中学校のスクールカウンセラーとして３年間勤務

実務経験および科目との関連性

公認心理師の職域のひとつである教育領域の職務経験が授業内容に活かされている。

ねらい　①科目の性格　②科目の概要　③授業の方法（ALを含む）　④到達目標　⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

①科目の性格

この科目は公認心理師の受験資格を得るための必修科目です。学科ディプロマ・ポリシーの1および2に該当します。公認心理師を希望するもの，将来的な取得を検討している人は必ず受講してください。公認心理師という資格の全体像を理解するガイダンスとしての内容も含みます。

②科目の概要

公認心理師という資格について，心理専門職が活躍する職域について，その倫理や職業的使命などについて解説します。

③授業の方法（ALを含む）

毎回の授業はパワーポイントによる講義を中心に行います。また授業のふりかえりと感想や疑問について教員学生間で共有するために，グーグルフォームもしくは紙媒体の相互コミュニケーションツールを用いてアクティブラーニングを行います。

④到達目標

公認心理師が有する職業的責任と公認心理師の職域について理解し，説明することができることが目標です。

⑤ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1.心理学の主な領域（発達、臨床、社会、生活、教育、保健）における基本的な理論や概念を理解できる
2.心理学全般または主な領域（発達、臨床、社会、生活、教育、保健）のうち特定領域に対して興味・関心をもち、自ら調べ考えようとする態度を備えることができる

3.制度や環境といった社会的な視野および生涯発達（誕生から死に至るまでの発達）という視点から、日常生活における課題を見出すとともに、専門教育で習得した理論・概念・知識・技能をもちいて、その解決に臨む意欲をもつことができる

内容

1	オリエンテーション
2	公認心理師の役割
3	公認心理師の法的義務及び倫理
4	心理に関する支援を要する者等の安全の確保
5	情報の適切な取扱い
6	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務
7	福祉分野における公認心理師の具体的な業務
8	教育分野における公認心理師の具体的な業務
9	司法分野における公認心理師の具体的な業務
10	産業分野における公認心理師の具体的な業務
11	自己課題発見・解決能力
12	生涯学習への準備
13	多職種連携
14	地域連携
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】テキストの該当箇所を読んで，不明な用語などについては各自で調べてノートにまとめておくこと（各授業90分）

【事後学修】講義中に感じたことや学んだことを振り返り，ノートにまとめること。疑問点については各自で教科書や参考資料などに基づいて調べておくこと（各授業90分）

評価方法および評価の基準

期末試験80% 授業への参加度（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業で行われる小レポートをもとに，その次の回の冒頭でフィードバックを行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】公認心理師エッセンシャルズ第2版　子安増生・丹野義彦（2018）有斐閣

【推薦書】特に指定しない

【参考図書】公認心理師の職責（公認心理師の基礎と実践）　野島一彦（監修）（2018）　遠見書房

毎回の授業で教科書を参照しながら受講できるように各自準備をすること

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

公認心理師を目指したい人、将来目指す可能性のある人は覚悟を持って、必ず履修してください。